

群馬の畜産 みんなの情報室

第351号

発行日
令和4年1月18日

発行:公益社団法人 群馬県畜産協会
〒379-2147 前橋市亀里町1310 群馬県JAビル 3階/TEL:027-220-2371 FAX:027-220-2372
ホームページ:https://chikusankyokai.or.jp



年頭のご挨拶

公益社団法人群馬県畜産協会 会長 唐澤 透

新年明けましておめでとうございます。

年頭に当り、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。また、平素から、本会の事業に対しまして、ご支援、ご協力を賜り、心から感謝を申し上げます。

昨年は、本県で豚熱が4例発生し、生産者の皆様が大切に育ててきた多くの豚を失うという極めて残念な結果となり、豚熱対策の難しさを痛切に感じた年となりました。また、高病原性鳥インフルエンザにつきましても、世界的流行が懸念されている中、11月以降、養鶏場で散発的に発生しており、最大限の警戒が必要な状況にあります。新年を迎え、畜産にとっては家畜伝染病との戦いが続くこととなり、厳しい一年になるかと思いますが、本会としては、生産者をはじめ、行政並びに関係団体と連携し、家畜伝染病の発生防止、更には豚熱発生農家への支援に全力で取り組んで参ります。

さて、新型コロナウイルス感染症も、ワクチン接種が進み新規感染者は激減していましたが、新たな変異株の出現による再流行が懸念され、予断を許さない状況にあります。コロナ禍での畜産への影響は、心配されていた肉牛価格は、牛肉の需要喚起策等による消費の回復に支えられ、概ね堅調に推移しています。一方、酪農では、業務用の乳製品等の需要が長期に亘り減少し、脱脂粉乳等の在庫が過去最高水準に積み上がるなど、生乳需給が悪化しています。また、配合飼料価格の高騰が続いており、配合飼料価格安定制度が発動される見通しですが、畜産経営を取り巻く状況は、より一層厳しさを増しています。

このような状況の中、本会では和牛の増頭対策、クラスター事業などにより、生産基盤の強化を図ると共に、安定的な畜産経営を継続するための経営支援をはじめ、家畜・畜産物の価格安定対策、家畜や農場の衛生対策、安全・安心な畜産物を提供する生産衛生の推進、畜産経営の人材確保など、協会としての役割が十分に発揮できるように、今後も関係各位との連携の下、スピード感をもって業務に取り組んで参りたいと存じます。

また、今年は第12回全国和牛能力共進会が10月に鹿児島県で開催されます。本会としましては、この大会を本県の和牛改良・肥育技術の集大成と捉え、出品対策に当たりましては、生産者をはじめ、県並びに関係団体の皆様と一丸となり、上位入賞を目指してしっかり取り組んで参ります。

結びに、令和4年が畜産経営者の皆様にとって実り多き素晴らしい年となることと、豚熱、新型コロナウイルス感染症の収束を切に願うと共に、本会の各種畜産振興関連事業に対しまして、皆様からの一層のご支援・ご協力を心からお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

目次

年頭のご挨拶	1	鳥インフルエンザ発生予防の対策について	7
群馬県畜産協会 第46回理事会が開催されました	2	令和3年度後期体型調査・牛群審査の実施について	8
令和3年度 和牛高等登録審査を実施しました	3	浦和競馬畜産フェアの実施について	8
和牛登録員研修会を開催しました	3	本県生産者団体の紹介(群馬県養豚協会)	9
肉用牛産肉能力平準化促進事業に係る現場後代検定調査牛の現地調査	4	本会職員のご紹介	9
肉用牛枝肉情報全国データベース活用について	5	価格安定制度の発動状況及び市況	10
地域豚疾病低減対策強化事業について	6	令和元年度海外畜産事情研修(EU3か国)に参加して⑧	11
畜産特別資金借受者に対するヒアリングの実施について	7	みんなで行こう！ケイバ！南関東4競馬場開催日程	12

群馬県畜産協会 第46回理事会が開催されました

去る、令和3年11月12日、第46回理事会が開催され、令和3年度変更事業計画及び収支補正予算が承認されました。全体の事業数は、公益目的事業及び収益事業で、当初計画時よりも3事業多い93事業となります。

1 変更事業計画の概要

(1) 公益目的事業

公益目的事業は、当初事業計画の作成後に新たに実施が決定された事業、事業内容の変更、事業量等の変更が見込まれる事業、廃止となった事業を中心に事業計画の変更を行います。

また、新型コロナウイルス感染症や県内で発生した豚熱（CSF）の影響などから、これらの状況を鑑み事業計画を変更し実施します。

(2) 収益事業等

家畜登録事業は、乳牛、和牛の登録頭数、肉用牛の遺伝子型検査頭数の増加が見込まれます。その他の事業は、概ね計画とおりの実施を予定しています。

会計区分における各事業数、補助元の状況は次のとおりです。

会計区分	補助事業	助成事業	特別事業	受託事業	家畜登録	事務受託	自主事業	計
公益目的事業	公1(1)経営安定支援	2 (2)		4 (3)		1 (1)	1 (1)	8 (7)
	公1(2)経営向上支援	8 (8)	1 (1)	9 (9)			10 (9)	28 (27)
	公1(3)安全・理解	5 (5)	6 (6)	3 (2)			9 (9)	23 (22)
	公1(4)能力向上	7 (7)		5 (5)	2 (2)		6 (6)	20 (20)
収益等事業	収1(1)家畜登録				6 (6)			6 (6)
	他1(1)団体事務受託					8 (8)		8 (8)
合計	22 (22)	6 (6)	6 (6)	18 (16)	6 (6)	9 (9)	26 (25)	93 (90)

補助元等	補助事業	助成事業	特別事業	受託事業	家畜登録	事務受託	自主事業	計
農林水産省	3 (3)							3 (3)
群馬県	7 (8)			2				9 (8)
農畜産業振興機構	9 (9)			(2)				9 (11)
地方競馬全国協会	1 (1)							1 (1)
家畜登録団体					6 (6)			6 (6)
中央畜産会	2 (1)	5 (5)		10 (7)				17 (13)
その他団体		1 (1)		5 (5)				6 (6)
事務受託先				(1)		8 (8)		8 (9)
その他			5 (5)	1 (1)			1 (1)	7 (7)
自己資金			1 (1)			1 (1)	25 (24)	27 (26)
合計	22 (22)	6 (6)	6 (6)	18 (16)	6 (6)	9 (9)	26 (25)	93 (90)

2 収支補正予算の概要

当初計画時、令和2年度から実施していた肉用牛肥育経営交付金制度（牛マルキン）の交付金をはじめ新型コロナウイルス感染症に係る支援等について、生産者負担金の納付猶予、経営体質強化に資する取組への奨励金の交付（いずれも肥育牛）に関する事業が継続されておりましたが、標準的販売価格が値を戻したことにより、牛マルキンの交付額の減少、新型コロナウイルス感染症に係る支援等の終了により当初予算を減額補正します。

また、新型コロナウイルス感染症拡大や豚熱（CSF）の発生による影響に伴い、行事等の中止をはじめ、中央における全国会議、研修会等リモートによる開催となりましたので、これら事業費を下方修正します。

このほか、畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業（畜産クラスター事業）で実施する生産基盤拡大加速化事業で交付される奨励金の会計区分の変更に伴う収支についても減額補正します。

(1) 経常収益

価格差補てん事業については、肉用牛肥育経営交付金制度（牛マルキン）の発動基準である標準的販売価格がやや値を戻したことにより、農畜産業振興機構から受け取る機構交付金が157,500千円減少、肥育農家の資金繰り支援のための生産者負担金の納付猶予により、事業参加する肉用牛の受取生産者負担金についても52,500千円減少する見込みです。

家畜登録事業、手数料収入、団体事務受託料等の事業収益は、価格差補てん事業の加入頭数減少による肉用牛肥育交付金制度手数料収益の減少、家畜登録事業の登録頭数の増額により、全体としては概ね当初予算とおりの推移が見込まれます。

(2) 経常費用

肉用牛肥育交付金制度（牛マルキン）は、令和2年度と比較し、標準的販売価格がやや値を戻したことにより、当初計画で見込んだ肉用牛肥育交付金405,000千円より210,000千円少ない195,000千円の交付を見込んでいます。

事業量等の減少により、補助事業等で本会が支払う支払補助金については、当初計画で見込んだ149,800千円より86,721千円少ない63,079千円を見込んでいます。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い警戒度判断が上がったこと、また、今年度に入り3件の豚熱（CSF）が発生した影響を受け、県外出張回数の激減、時間外労働の減少、正職員数の減少に伴う人件費などの減少により、事業費、管理費は減額となる見込みです。

(3) 総括

これらのことから、経常収益計は、当初予算8億769万円から、5億2,036万円に、経常費用計は、当初予算8億743万円から、5億1,393万円に予算を減額補正します。

これに伴う一般正味財産の当期計上増減額は、当初予算から617万円増加して、643万円となる見込みです。

また、経常外収益と経常外費用について計上額に差異はありません。

ご承認いただきました変更事業計画及び収支補正予算をもとに、令和3年度の事業について適正執行に努めて参りたいと思います。

令和3年度 和牛高等登録審査を実施しました

令和3年11月9日に全農群馬県本部渋川家畜市場、10日に利根沼田農協新治支所にて高等登録を実施いたしました。（公社）全国和牛登録協会の松宮講師による牛の見方などの説明を交えての登録となり、今年度は17頭が高等登録合格となりました。

この高等登録とは、血統・体系・繁殖成績・産子成績・不良形質・育種価に関する6つの資格条件を満たした雌牛に与えられる最高の登録資格であり、本会では自主事業として、高等登録の推進事業も行っています。全国和牛能力共進会でも、高等登録群という高等登録牛を軸として、娘、孫娘の3代を1群とした部もあり、前全共では本県出品群で優等賞9席を獲得しました。今年開催の全共鹿児島大会でも出品予定ですので、是非応援してください。



和牛登録員研修会を開催しました

令和3年12月22日に畜産試験場にて和牛登録員研修会が開催されました。

和牛登録事業の円滑な推進を図るため、新規子牛登記検査員の養成を目的とした研修会であり、県内の関係者23名が出席しました。本会職員の清水睦記主任が講師として子牛登記の実務、基本・本原・高等登録の申し込み方法、遺伝子型検査について説明を行いました。

今回から新しく追加となった実習では、4頭の子牛が用意され、説明を受けながら子牛の鼻紋採取、性別の確認、牛の見方、子牛検査票の記入方法の実習などを行いました。鼻紋を採取することに苦戦する出席者もありましたが、何度も挑戦することができ、とても貴重な体験となりました。

子牛登記を行う際にも、損徴等によりすべての子牛が登記できないことを学び、その判断をする知識や経験が必須だと強く感じました。



鼻紋採取



研修の様子（左：座学 右：実習）

肉用牛産肉能力平準化事業に係る現場後代検定調査牛の現地調査

今回初めて広島県産肉能力検定場において開催された検定調査牛の現地調査に参加しました。近年、家畜改良事業団では群馬県産の子牛を多数種雄牛候補として買い上げており、この検定場には「茂晴鶴・武晴平・福華鶴・福之鶴・美紀雄・萬代・福増鶴・秋忠鶴・花勝鶴・美津隆鶴・茂華鶴・福勝鶴」12種雄牛の産子が合計で97頭いました。

今回現地で確認した中で、「茂晴鶴」「秋忠鶴」「福増鶴」が増体に優れ期待出来ると感じました。話題の「福之鶴」ですが、やや小ぶりの牛もいますが、皮膚被毛が良く、現在判明している出荷枝肉結果は素晴らしい成績であり、今後も期待できると感じました。

また、この研修には、肥育を6000頭(和牛3000頭 交雑3000頭)、繁殖雌牛を1200頭飼養している島根県松永牧場の松永直行氏を講師にゲノミック評価と肥育の結果を説明していただきました。松永牧場では生まれてきた雌牛全頭のゲノムを調べ、繁殖雌牛にするか肥育をするかを能力や体形で選定しています。ゲノムを調べたが肥育素牛となった雌牛の結果が下記の通りです。

BMSのゲノム評価	H	17頭	平均BMS	10.1	BMS10以上	13頭
BMSのゲノム評価	A	20頭	平均BMS	8.8	BMS10以上	8頭
BMSのゲノム評価	B	20頭	平均BMS	8.8	BMS10以上	6頭
BMSのゲノム評価	C	17頭	平均BMS	7.4	BMS10以上	2頭
BMSのゲノム評価	D	5頭	平均BMS	6.8	BMS10以上	0頭

松永氏いわく、BMSのゲノミック評価と実際の枝肉のBMSには正の相関があるが、飼育管理で変わるとの事でした。ここまで多くのゲノミック評価された牛の肥育結果を学べたのは初めてであり、大変勉強になりました。(清水)

なお、本会では数年前からゲノミック評価推進事業という自主事業を行ない、県内の繁殖雌牛の能力向上を目指しており、今回の調査を通じて、ゲノミック評価での改良方法は着実に成果を残しているように感じました。



家畜改良事業団広島産肉能力検定場



検定牛舎 80牛房×5頭 約400頭を常時飼養



「福之鶴」産子① 月齢28.1 体重780kg 体高144cm



「福之鶴」産子② 月齢26.5 体重698kg 体高138cm

肉用牛枝肉情報全国データベース活用について

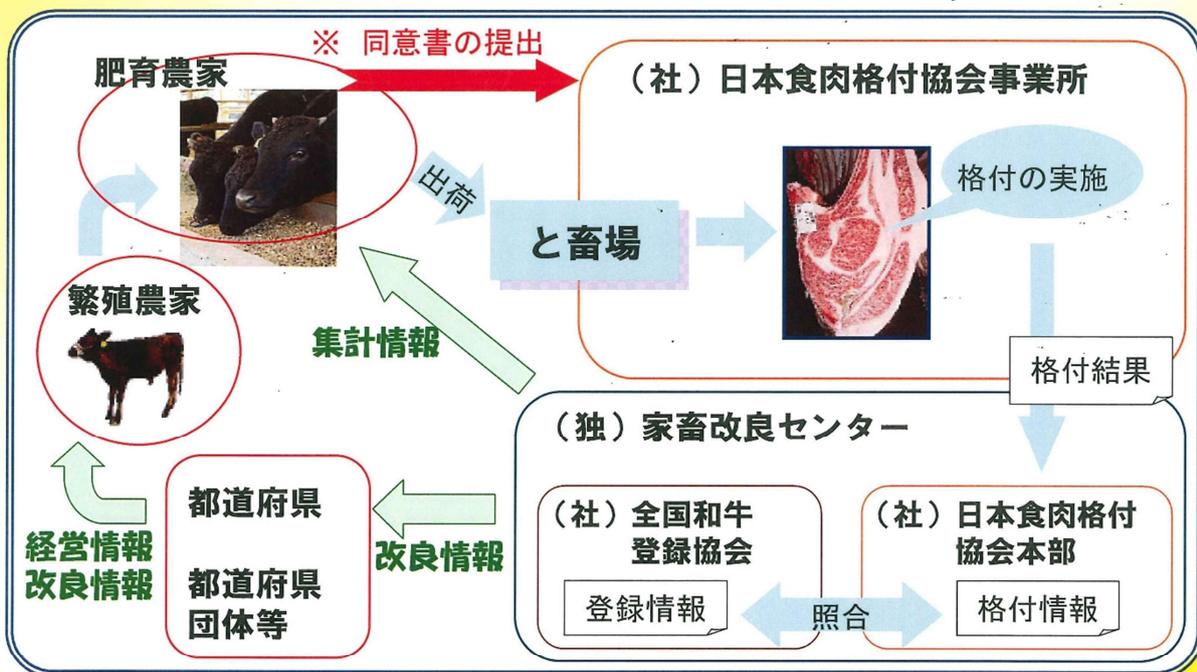
本会ではかねてより、黒毛和種肉用牛の枝肉成績等のデータより育種価評価解析を実施しており、解析結果を活用した繁殖雌牛の改良を推進しておりますが、(独)家畜改良センターの運営する「肉用牛枝肉情報全国データベース」の活用により全国の枝肉情報から同意農家の枝肉情報を収集することができるため、より正確な育種価評価結果を提供できることが期待されます。枝肉情報が上記のデータベースに蓄積されるためには、出荷者の同意が必要となります。同意された出荷者には個別集計情報が提供され、農場の成績と全国、県内の平均成績との比較による活用等もできますので、まだ登録されていない黒毛和種の肥育牛出荷者の方はぜひご登録ください。



肉用牛枝肉情報全国データベース を活用しませんか！

この事業は、
収集した全国の枝肉情報を集計・分析して、

- ① 肥育農家
 - ② 都道府県 → 繁殖農家
 - ③ 肥育農家の了承を得た農協、都道府県団体 → 繁殖農家
- 等へ **改良情報、経営情報** としてフィードバックする事業です。



※ 個人情報保護法に沿った管理をするため、肥育農家の情報を利用するに当たり、同意書を提出していただく必要があります。多くの枝肉情報を収集するために、都道府県、農協、都道府県団体の方のご協力をお願いいたします。

お問い合わせ先
群馬県畜産協会 岡部・清水まで TEL：027-220-2371

地域豚疾病低減対策強化事業について

本事業は公益財団法人全国競馬・畜産振興会の助成を受け、養豚農場で生産性を著しく阻害する疾病の発生を低減し、まん延防止を図るための対策の推進を支援する事業です。各県で取組対象の疾病を選定し、選定した疾病に対して対策を支援します。本県では豚繁殖・呼吸障害症候群（PRRS）を対象疾病として実施しています。

豚繁殖・呼吸障害症候群（PRRS）は、PRRS ウイルスの感染によって引き起こされる感染症で、わが国では届出伝染病に指定されています。母豚では流死産などの繁殖障害、育成・肥育豚では肺炎などの呼吸障害を引き起こし、経済的損失が大きい疾病の一つとなっています。

実施内容は、管理獣医師による飼養衛生管理基準に基づいた衛生指導、疾病侵入防止のための着地検査、清浄性および浸潤状況を把握するためのモニタリング検査です。また、PRRS のモニタリングの補足として、豚サーコウイルス2型（PCV2）のモニタリング検査も実施しています。豚サーコウイルス2型（PCV2）は、発育不良や呼吸器障害などの症状を示す疾病であり、PRRS との混合感染は大きな生産性阻害要因となっていることから、PRRS とともに PCV2 の浸潤状況の把握も重要となります。

農場は管理獣医師の指導のもと、衛生対策に取り組み、疾病の発生低減、まん延防止を図ります。

また、管理獣医師や関係機関による推進会議を年3回開催し、指導内容および検査結果の情報共有、各地域の情勢についての情報交換を行い、衛生管理の検討を行っています。



推進会議の様子

清浄化が進展することにより、生産性の向上が期待できることから、平成27年3月公表の家畜改良増殖目標などで示されている育成率の向上割合を達成することを事業の達成目標としています。目標値として、事業取組農場の平成30年度の育成率の平均を100として、事業取組農場戸数の6割の農場における育成率を、中間成果指標として令和3年度末で101.7%、最終成果指標として令和7年度末で102.8%の達成を目指します。

本県の事業取組農場戸数の6割の農場における令和3年11月末時点での育成率は101.3%となっており、引き続き対策を実施して育成率の向上につなげていき、目標達成を目指します。

今後も事業を活用し、養豚農場、管理獣医師、関係機関と協力して、疾病の侵入防止および疾病清浄化に取り組んでまいります。

畜産特別資金借受者に対するヒアリング実施について

(1) 借受者へのヒアリングを実施

本会が事務局を務める群馬県畜産経営特別指導推進協議会は10名の畜特資金等の借受者に対して経営状況等のヒアリングを実施しました。

現在負債整理資金の借受者は17名（うち1名は今年度償還完了）おり、毎年経営改善計画書を提出いただき、その内容について妥当性等について上記支援協議会で検討し、経営状況等の確認が必要と判断した者に対してヒアリングを実施しております。

ヒアリングの結果については協議会内であらためて情報共有を行い、借受者が資金を滞りなく返済ができるように経営指導をする際に活用しています。

(2) 経営指導に係る指標について

本会では借受者の状況を確認するための指標として経済階層というものを使っておりますが、それについて紹介いたします。

区 分	戸数
SA層＝目標所得に既に到達している者	2
A 層＝約定償還元利金の支払が可能	8
B 層＝約定償還利息全額、約定償還元金の一部が返済可能	6
C 層＝約定償還利息の一部が返済可能	0
D 層＝目約定償還元利金の返済が全く不可能	1

上記の表のとおりSA層～D層まであり、経営改善計画に必要な情報を入力すれば自動でどの層に該当するのかがわかるようになっております。

現在本県ではB層以上の借受者がほとんどですが、C層やD層に該当する借受者については特に注意して経営指導を行っております。

鳥インフルエンザ発生予防の対策について

群馬県農政部畜産課家畜防疫対策室 家畜防疫対策専門官 林 省二

昨シーズンは、日本国内では18道県58事例の発生があり、約987万羽の鶏を処分しました。今シーズンも令和4年1月13日現在、9県13事例の発生となっており、発生予防対策として飼養衛生管理基準の遵守徹底が重要です。このことから、養鶏農家の全従業員一人一人がウイルスを持ち込まないという、強い決意を持って日々の管理に当る事が大切です。

具体的には下記の3項目にご注意ください。

1 家きん舎内用の長靴への履き替え、手指消毒・手袋の交換

(1) 家きん舎外で使用した履物には、ウイルスが付着している可能性があることから、家きん舎への出入り時は必ず家きん舎内用の長靴への履き替えを行いましょう。

(2) 手指にはウイルスが付着していることを想定し、家きん舎への出入時には手指を消毒しまししょう。また、家きん舎用の手袋を使用する場合には、軍手ではなくゴム手袋等の消毒効果が発揮できるものを用いましょう。

2 家きん舎への野生動物侵入防止の為の修繕

家きん舎周辺のウイルスがネズミ・野鳥等により持ち込まれる可能性があることから、破損しやすい箇所点検・修繕を実施しまししょう。その場合、日々の管理の中で、ネズミ等の糞や断熱材のかじり跡など野生動物侵入の痕跡を確認し、速やかに補修しまししょう。

3 農場周辺の水場への対策

多くの発生農場の近くには、ウイルスを伝播する可能性のある野生の水鳥等が飛来する可能性のある池等がありました。そこで、農場内の水場であれば水を抜くこと、農場外で水を抜く事が困難であれば、忌避テープ等を貼るといった取組を行うことが重要です。

令和3年度後期体型調査・牛群審査の実施について

令和3年12月3日から23日に（一社）日本ホルスタイン登録協会主催による県内の体型調査及び牛群審査を実施しました。

後代検定材料娘牛を含む初産牛の体型調査を37戸298頭、2産以上の牛を含む牛群審査を34戸366頭実施し、このうち85点を超える高得点牛は218頭となりました。

（一社）日本ホルスタイン登録協会の実施する体型調査および牛群審査は、牛の現在の体型から良い特徴と望ましくない特徴を洗い出し、評価するものです。この体型的な評価を参考にして交配する種雄牛の選定を行ったり、牛群検定の乳成分等のデータを併せることによってNTP（総合指数）を算出することもできますので、血統登録とともに積極的に活用いただきたいと思います。



体型調査実施中の様子

浦和競馬畜産フェアの実施について

令和3年11月22日～26日の5日間にわたり、埼玉県、栃木県、長野県、本県の4県の協賛で浦和競馬場にて畜産フェアを実施しました。

開催期間中において、本県畜産関係団体主催の冠レースを4競走（畜産協会長賞、上州和牛賞、JA高崎ハム賞、東毛酪農63℃賞）実施し、優勝馬の馬主や騎手への副賞授与を行いました。

ただし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、来場者の人数制限が継続されており、例年開催し好評を得ていた県産チーズの無償配布や高崎ハムの特売イベントについては、昨年度に続き今回も中止となりました。

ネット投票利用も増えており、地方競馬の利用者数は増加傾向にあるようです。期間中においても来場者計11,345名、祝日23日は4,926名（上限5,000名）と上限近い多くの観客が訪れており、活気のある声援が聞けました。

本イベントへの参加により、地方競馬および畜産振興に資することを目的とし、県産畜産物への感心をより一層高めるため、今後も取り組んでまいります。



浦和競馬場レース場内



畜産協会長賞 優勝馬ゴールの瞬間

本県生産者等団体のご紹介（群馬県養豚協会）

養豚生産者集団（会員数：107戸（県内農家戸数：212戸））として、安定的養豚の確立、組織の整備強化による連帯と経営の改善合理化を通じて、本県養豚の生産基盤の強化をするために、必要な事業活動を行っています。

【活動内容】

- (1) 豚の生産の振興のための事業
- (2) 共同利用施設等の整備等を図ることにより養豚経営の生産性の向上に資する事業
- (3) 養豚経営の普及発達、種豚および肉質の改良増殖に関する指導、奨励
- (4) 豚の生産、流通および消費に関する調査研究
- (5) 豚に関する建議および陳情
- (6) 豚に関する情報の収集ならびに印刷物の発行



CSF 対策を巡る行政との協議



焼肉試食@ニューイヤー駅伝

令和3年4月以降、短期間に県内4農場において豚熱（CSF）の発生が確認される等、養豚経営の維持が厳しさを増す状況下で、生産者は、全力を挙げて防疫対策の強化と肉豚生産のコスト低減等に取り組み、日々努力して行く必要があります。

こうした中で、群馬県養豚協会は、会員相互の連絡協調並びに関係機関との連携をより一層緊密にして、活動を推進して参ります。

本会職員のご紹介

今井健太と申します。

現在は畜産 ICT 事業や楽酪 GO 事業、畜産クラスター事業等の機械導入関係の事業のほか、畜産特別資金等推進事業等の経営支援にかかわる業務を担当しております。

また、農場 HACCP 認証の構築支援にも一部携わっているほか、審査員として農場の審査も行っております。

今年度から新規で担当する事業ばかりのためまだまだ勉強不足なところもありますが、できるだけ速やかに事業が実施できるよう努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。



大森拓郎と申します。

乳牛の血統登録事業、酪農ヘルパー事業を主に、乳牛に係わる業務を担当しており、共進会事業や新規就農相談事業などにも従事しています。

コロナ禍により様々なイベントが中止せざるを得ない状況となり、全日本ホルスタイン共進会を始め、県単位の開催もままならないところですが、酪農家の交流の場であり、未来の酪農家を育む場でもある共進会を、関係者で一丸となり、時代に即した形で開催していきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



価格安定制度の発動状況

■肉用子牛生産者補給金制度 補給金交付状況

区分	平均売買価格(円)					交付単価(円)				交付額(円)								
	年次	月次	期別	黒毛	褐毛	他肉	乳用	交雑	黒毛	褐毛	他肉	乳用	黒毛	褐毛	他肉	乳用	交雑	
7	3	1 ~ 3	第4四半期	774,500	721,900	297,300	249,800	380,500	0	0	22,700	0	0	0	68,100	0	0	
		4 ~ 6	第1四半期	756,000	666,300	-	246,300	339,000	0	0	-	0	0	0	-	0	0	
		7 ~ 9	第2四半期	720,400	600,500	-	245,300	326,900	0	0	-	0	0	0	-	0	0	
		10 ~ 12	第3四半期			-					-				-			
計				※他肉（その他肉専用種）はR2年度より算定期間が1年（4月～3月）となりました。														
																68,100		

◆肉用牛肥育経営安定交付金制度（牛マルキン） 交付金交付状況（令和3年10月期）

期間	品種区分	納付区分	支払区分	交付対象		交付金単価 (頭/円)	交付金の額			交付日
				人数 (人)	頭数 (頭)		(円) (4/4)	交付金として 支払う額(3/4)	積立金から 支払われる額(1/4)	
10月期	交雑種	通常	概算払		618	13,215.0	8,166,870	6,125,142	2,041,728	R3.12.24
					273	13,215.0	3,607,695	2,705,755	901,940	
				計	75	891	11,774,565	8,830,897	2,943,668	
	乳用種	通常	概算払		83	17,778.0	1,475,574	1,106,680	368,894	
					22	17,778.0	391,116	293,335	97,781	
				計	8	105	1,866,690	1,400,015	466,675	
	小計	通常	概算払		701		9,642,444	7,231,822	2,410,622	
					295		3,998,811	2,999,090	999,721	
				計	83	996	13,641,255	10,230,912	3,410,343	

◆肉豚経営安定交付金制度（豚マルキン） 交付金単価について（令和3年4～12月分）

算出期間	令和3年4月から12月まで
肉豚1頭当たりの見込の標準的販売価格	38,176 円/頭
肉豚1頭当たりの見込の標準的生産費	34,779 円/頭
肉豚1頭当たりの見込の交付金単価	—

市況

◆渋川家畜市場成績【全農群馬県本部】（令和3年12月）

開催月	性別	取引頭数	高値(円)	安値(円)	平均価格(円)	平均体重(kg)	平均日齢(日)	Kg単価(円)
12	雌	139	885,500	128,700	625,852	284	292	2,202
	去勢	181	1,212,200	495,000	814,796	323	284	2,522
	合計	320	—	—	732,723	306	287	2,393

◆乳用牛市場成績（令和3年11月）

開催月	畜種区分	授精区分	腹子品種	頭数(頭)	平均体重(kg)	平均価格(円)
11	未経産	AI	ホルス	10	352	291,100
			交雑種	15	573	492,067
	初妊	ET	和牛	43	570	535,395
				2	505	707,000
	経産	AI	ホルス	8	591	387,250
			交雑種	2	703	329,000
			和牛	17	708	353,706
合計		ET	和牛	6	629	655,833
合計				103	578	470,214

◆前橋家畜市場取引結果【群馬県家畜商商業協同組合】（令和3年12月）

品種	区分	性別	売買頭数	最高値(円)	最低値(円)	平均(円)	平均体重(kg)
和牛	子牛	メス	135	728,200	72,600	487,487	144
		オス	249	973,500	60,500	587,590	156
	スモール	メス	1	306,900	306,900	306,900	38
		オス	2	347,600	319,000	333,300	42
交雑種	子牛	メス	31	449,900	60,500	303,919	280
		オス	29	526,900	56,100	247,386	181
	スモール	メス	667	388,300	550	169,614	85
		オス	814	367,400	5,500	210,018	91
乳牛	子牛	メス	6	228,800	45,100	134,933	106
		オス	3	53,900	17,600	34,833	98
	スモール	メス	14	149,600	1,100	63,721	65
		オス	321	162,800	220	90,739	73

令和元年度畜産海外事情研修（EU3か国）に参加して ⑧

新年あけましておめでとうございます。

このシリーズも8回目を迎えることとなりました。年4回発行の機関誌ですので、足掛け2年を迎えています。そろそろ飽きておられませんか？寄稿もそろそろお休みしたいと担当に申し込んでいたのですがなかなか許しをいただけません。先は長いですが、もう少しお付き合いください。

さて、ドイツは7日目となってきました。いよいよドイツ最終日へ突入です。

令和元年9月30日 ドイツ編（7日目）

ノルトライン＝ヴェストファーレン（＝NRW）州の農業会議所が設置する畜産教育研修施設「ハウス・デュッセ」に向かいました。

NRW州の農業会議所は、日本で言いますと、農業会議所と農大と試験場を足して3で割った機能を持つ公的機関です。州の農業省に対する専門的な助言や動物保護、教育機関に対する助言や専門的な情報の提供、農家での実践的な研修と教育研究機関での教育の双方で行う研修システム（デュアルシステム）による農業士の育成、農業者のレベルアップ研修なども行っていました。

ハウス・デュッセは大きく、研究、教育、情報の3つの分野の事業を実施していました。

（1）研究

主に、豚、鶏、再生可能資源など中心に応用研究です。EU内で厳格さを増すアニマルウェルフェアに沿った飼養方法の研究を中心に、畜舎構造や施設、使用する器具などの研究でした。ドイツ国内では、企業に関連しない鶏の研究機関は3か所しかなく、ハウス・デュッセで行っている鶏の研究は、国内において価値のある研究だとのことでした。

（2）教育（職業訓練）

ドイツでは、農業者の子弟はもちろん、非農家出身者に対する職業訓練（デュアルシステム）を通じ、農業士などの資格を与える制度（マイスター制度）が充実しています。これらにより、非農家出身者も畜産に従事でき、雇用する側も、実習生が一定のレベルにあることが明らかとなるため、スムーズな就業に結びついています。

ここハウス・デュッセは、これらの中核の担う役割を持っています。

職業訓練は、養豚や酪農家（最大2戸）で行われる実践研修と、幅広い畜産分野の知識を身につけるための座学を年1回2週間の集中研修があります。

（3）情報

ドイツでは、家畜の大量飼育を行う畜産業に対し社会の目が厳しく、ハウス・デュッセでは、一般消費者に対する畜産業に対する広報・PR活も行っていました。

一般消費者に対し施設見学を招待し、家畜の飼養環境を見学させたり、子供の搾乳体験をさせたりするなど、農家と生産者の対話の場を作っていました。驚くのは、年間の訪問者が23,000人以上にも上ることです。積極的な消費者理解の機会を作っているように感じました。ハウス・デュッセの研修の中で強く感じたのは、アニマルウェルフェアやアニマルコンフォートへの応用研究と普及です。

アニマルウェルフェア等に対し意識の高いEUの飼養管理基準の変更のたびに、基準に適合できる飼養管理方法や施設、機械の研究を進め、生産者等が取り組めるように技術の普及を図るという重要なスキームを担っているためです。

EUが定めるアニマルウェルフェアの基準は、生産者のこれまでの飼養状況を鑑みることはなく、消費者意識の中で有無も言わず基準が決まり、それに対応できない生産者は自然に淘汰されていくこととなります。

研修に伺った際、EUにおいて、豚の分娩期の飼養面積の拡大や去勢時の豚の苦痛軽減のために麻酔の利用が決まった時期でした。ハウス・デュッセでは、数年後、生産者がこれらに対応できるよう研究を進めなくてはならないのですが、州立の研究施設でさえ、これまで研究してきた施設では基準を満たすことが出来なため、飼養面積を拡大した分娩房モデルについて、新たに豚舎を建築し直して研究をしなければならぬとお話を伺いました。



豚の飼養に適した豚房の研究例 親豚の行動に配慮した分娩房



臭気コントロール装置の研究 外部の臭気は強く感じない

また、去勢時の麻酔使用については、麻酔を人に使われないよう、特殊な麻酔装置を開発し、その使い方について、生産者への研修を実施して普及していくのだそうです。去勢時の麻酔使用の開始時期が決まっていますから、それに合わせて麻酔装置の開発、普及を行う必要があります。それらを2～3年の間で対応するという速さは日本では考えられないなと思いました。

これが出来るのは、アニマルウェルフェアへの対応技術を常に州がけん引しており、かつ、ハウス・デュッセのような生産者への技術指導と普及の体制が確立しているからにほかありません。

研修教育体制について、日本がドイツに学ぶべき点はたくさんあると感じました。もし、許されるのであれば、この研修教育体制について、深くドイツの実情を研究してみたいと思いました。（加藤）



採食ストレスを軽減する柵 カウコンフォート用 砂の敷料



みんなで行こう！ケイバ！南関東4競馬場開催日程

地方競馬の収益金は畜産の振興に役立っています

詳しくは南関東4競馬場サイト：<http://www.nankankeiba.com/index.html> をご覧ください

◆BAOO高崎

群馬県高崎市岩押町 12-16
お問合せ：027-322-5192



ロイヤル席
個別モニター付き特別
観覧席で快適な一日を
お過ごしいただけます

◆オフト伊勢崎

群馬県伊勢崎市宮子町 3074
伊勢崎オートレース場
グリーンスタンド4階
お問合せ：0270-23-0535



平日、大井、川崎、
船橋、浦和の馬券が
購入できます



【開催日程】

👉 ナイター 🟡 薄暮開催

2022年 1月																														
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
川崎	川崎	川崎	川崎		川崎	川崎			船橋	船橋	船橋	船橋	船橋			浦和	浦和	浦和	浦和	浦和			大井	大井	大井	大井	大井			川崎
		SⅢ										SⅢ					SⅢ								JpnⅢ					

2022年 2月																											
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
川崎	川崎	川崎	川崎			大井	大井	大井	大井	大井			船橋	船橋	船橋	船橋	船橋			浦和	浦和	浦和	浦和	浦和			川崎
	JpnⅠ							SⅡ	SⅢ					SⅢ							SⅡ						

2022年 3月																														
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
川崎	川崎	川崎	川崎			大井	大井	大井	大井	大井			浦和	浦和	浦和	浦和	浦和			船橋	船橋	船橋	船橋	船橋			大井	大井	大井	大井
	JpnⅡ							SⅢ						SⅠ							SⅡ	SⅡ	SⅡ				SⅡ			

編集後記

新年あけましておめでとうございます。お正月はいかがお過ごしでしたでしょうか？

コロナの第6波の心配もある中で、自宅で家族とゆっくりお正月休みを過ごされた方も多くいらっしゃると思います。

そのような中で迎えた2022年ですが、今年の干支である「壬寅」には「成長」や「始まり」といった意味があるそうです。畜産業界でも豚熱や鳥インフルエンザ、飼料価格の高騰など心配な出来事が続いています。この逆境に負けず、衛生管理の見直しや飼料給与の見直しのきっかけとして新たな成長への取組みにつなげてほしいと思います。本会においても生産者の取組みを支援していけるよう、精一杯取り組んでいきたいです。

本年もよろしくお願いいたします。(岡部)